

第3回 港区生物多様性推進委員会 議事要旨

日 時 平成25年4月10日(水)

18:00～20:30

場 所 港区役所9階 研修室

出席者 一ノ瀬 友博 委員長

中村 俊彦 副委員長

川廷 昌弘 委員

草刈 秀紀 委員

芳賀 勲 委員

土方 直美 委員

平川 幸子 委員

本田 裕子 委員

榊中 多賀子 委員

三井 知之 委員

峰崎 善次 委員

村上 暁信 委員

矢野 亮 委員

山田 順之 委員

港区 環境リサイクル支援部長

環境課長

環境課緑化推進担当 3名

欠席者 河野 博 委員

開 会

1. 環境課長挨拶

ー環境課長より、委員会開催について挨拶を行った。

2. 議事要旨・発言要旨

委員長

第1回、第2回と時間が少なく、消化不良の感があった。したがって、今回は時間を30分延ばして実施する。

今回は、次第にあげられている5つの議題のうち、特に「(3) 港区生物多様性地域戦略の骨格部分の検討について」に重点をおいて、議論を進めていく。

(1) これまでの推進委員会のご指摘事項と対応について

ー事務局より、これまでの推進委員会のご指摘事項と対応について説明し、質疑応答を行った。

委員長

資料において、“今後検討します”という表記がたくさんある。委員のなかで検討し、合意形成していくことになる。

全体をとおして質問はないか。

委員

発言なし。

(2) 計画策定のスケジュールと地域戦略の構成（案）について

ー事務局より、計画策定のスケジュールと地域戦略の構成（案）について説明し、質疑応答を行った。

委員長

スケジュールについて質問はないか。

委員

発言なし。

委員長

先行事例を現在収集している。良い事例はないか。

委員

発言なし。

委員長

豊岡市の事例は、鷺谷先生も関わられており、大変良くできているので、是非見ておくと良い。

(3) 港区生物多様性地域戦略の骨格部分の検討について

一事務局より、これまでの推進委員会のご指摘事項と対応について説明し、質疑応答を行った。

委員

議論やアンケートから見えてきたものについて説明。

アンケートやイベントを通して区民からたくさん意見をいただいております、これらはすべて取り入れないといけない。意見として出たフレーズを書き出して、資料3を作成した。

フレーズを書き出すことにより、現状や課題などが浮き彫りとなる。

行動計画としては、「知る」、「守る」、「つくる」、「つなげる」、「つかう」、「伝える」の6つに整理される。

委員長

問題と課題について漏れがないか、将来像はどういう方向に向かうかなどについて、これから1時間かけて議論していく。

難しい表現についても指摘してほしい。

委員

現状の問題点としてあげられている外来種について、重要な点は外来種を「知る」ことである。

園芸店などで売られているホテイアオイやアメリカザリガニ、アカミミガメなどの外

来種が、区内の公園などでも見られる。在来種がかつての生息空間や種構成を取り戻すには、「知る」ことが重要だと思う。

子どもが本物の自然を理解できるように大人も理解することが必要。

少なくとも国の外来生物法にかかっているものは、釣ったら戻さない、飼っているものは放さないなど、きちんと対応すべきではないか。

消費者は、きちんと食品の履歴や成分など書いてあれば、対応ができる。販売されている外来生物についても同様である。私たち消費者が理解して、積極的にいい方向に持っていくことが必要である。

委員

現状の問題点のところ、大きく世界中から供給を受けている都市生活ということ強調する必要がある。

生物多様性の元が基盤環境であるということの記述がない。

区内には4万もの事業者があるが、事業者がどういう活動をしているのかについて、自治体としてどう監督していくかということを示すことが重要である。先進的な都市戦略を目指す書かれている以上は、その点について本気で考えないといけない。

計画の課題が、1、2、3、4と分けられたのは非常に明快であり、抽出方法は分かりやすく良いと感じた。

委員

企業の組織に対してアピールするのか、個人にアピールするのかというのはポイントの一つ。在住者、在勤者、それぞれに考え方も対応も変わるだろう。どこまで網羅すべきかを明記させるべき。

委員長

対象としては、すべてを網羅していくというスタンスである。

委員

地域内外の多様な主体との連携について、大きな金融機関が環境配慮についていろいろ気にしている。環境活動が、融資にも関わってくる可能性もなくはない。そのような働きかけも必要だろう。

委員

都市的環境の中で、都市部においては温暖化の問題が大きく、都市特有の気候（ヒートアイランド）も形成されている。温暖化の視点も必要である。

委員

計画課題について、保全と空間づくり、創出の違いが、一般の人には分かりにくいのではないかと。言葉の使い方をもう少し整理すべき。

計画課題について、の④と⑨の違いがこの場にいるとわかるが、文字を見ただけでは違いが分かりにくい。⑨はプログラムやソフトを意識したものだと思う。正確な言葉の使い回しが必要である。

委員

そもそも、何故この計画を作る必要があるのか、共通認識を持つことが必要。

大きく抜けている視点は、T P PやA B Sなど地球レベルの問題に対する認識で、これに対する対応が必要になる。

また、行動計画の数値目標が重要になる。指標が出しやすいものから優先的に実施するといった考え方で進めたらどうか。

委員

仕事で来られている方をどうするかといった意見があったが、昼間滞在している時間という視点で考えると両方大事であり、是非、仕事で来られている方も入れて欲しい。

委員

現状の問題点2)は、計画課題の2)だけでなく、3)にもかかるのではないかと。

計画課題4)については、協働や連帯だけでなく、行政内の実行しやすい組織づくりや、組織内の連携も必要である。

委員長

組織もそうであるが、課題として専門家不足というのを加えてもよいのではないかと。

次に、基本理念と計画の目標について、おかしいところや漏れ等はないかと。

委員

基本理念について、企業のことを意識して「ビジネスも暮らしも」となっているが、「暮らし」が先のほうがよいのではないかと。

委員長

例えば、暮らしと仕事など、ビジネスという表現を使わない言い方もあると思う。その他、是非、案をいただけたらと思う。

委員

目標と方針について、愛知目標と照らし合わせる作業が必要と考える。

委員

2050年の将来像については、もっと思い切った表現も必要である。また、人も生きものの一つであり、分けない表現がいいだろう。

委員

経済の②の表現がおかしい。「自然エネルギーを使っている」等とすべき。

経済について、多様性に配慮した都市開発みたいな概念も入れた方がいい。

委員

主語を明確にしないと、実行力のある戦略にならない。全てを港区がやるわけでもないだろうから、そこをきちんと整理すべき。

例えば、基本方針のあとに誰が参加して欲しいかを整理すると具体的なイメージが伝わるのではないか。

委員

主語は、基本的には「私」にするのが良いのではないか。住民でもあり、企業でもある。

問題から課題、目標など、ステップが多いのでそのあたりの整理を考えないといけない。問題点と課題は分けなくてもいいと思う。

委員長

最終的にはもうすこし整理が必要である。基本は主体がやるということになる。

委員

港区のまちづくりについて、港区の地域性に配慮したものを考えて欲しい。

委員

生物種について、種数は書いてあるが、具体的な種名や指標生物などもあげることによって、個性や特徴を表現できるのではないか。

委員

港区の多様性戦略だから、港区の中の話になっていくのは構わないと思う。海外への視点が薄くなるのは仕方がない。

委員

生物多様性の経済評価についても、記載しなければならない。

委員

企業の担当者として、どこまでを「私」といわせるかについては議論を深めないとい

けない。港区の話という意見も出たが、つながりを考えると世界的な話でもある。そのような意味では、事業者がどのように関わるのかについて、きちんと整理しておく必要がある。世界一の事業者の過密な自治体における先進事例という点からも、重要である。

委員

港区の他の部局が行う生物多様性の取り組み等“横串”をどういうふうに指すのかが大事。今回の策定では間に合わなくても、見直しの段階で各課から生物多様性に関する取組について意見をもらうといった仕組みがあるとよいのではないか。

委員

“横串”についても「私」の視点が重要である。主体とつながりをどう表現し、プランとしてどう出すかが大きな視点となる。

国家戦略では主流化という言葉が使われているが、主流化ではなくて主体化である。皆がその担い手であるという視点が重要。

委員長

主体化というのは結構大事なキーワードとなるかもしれない。

委員

エコなものを推奨する等の取り組みがあってもいいのではないか。

委員長

2050年の将来像では水、電力はどこから来るかといった流域論も考えなければならない。

委員

港区は荒川と多摩川の上に位置する。もっと広い概念で絵を書いて、集水域に位置する港区として表現するのがよいのではないか。

委員

地下水脈も考えなければならない。

委員

将来像は、できるだけ曖昧に書いた方がいいと思う。

多様性の議論は、その保全と向上、生態系サービスの理解と向上の2点。そこを踏まえると、最終目標が薄いのではないのかという印象がある。将来像については、例えば川をきれいにというならば、それによって得られる良い点を意識することが重要。

自然エネルギーと生物多様性どう関係があるかについて、もう少し整理すべきであ

る。

連携は非常に大事な部分である。防災計画、教育、福祉と生物多様性の議論をどこまで入れ込めるかを考える必要があるだろう。

委員

自然災害と生物多様性は、すでに海外では多く議論されている。

委員長

エネルギーについて、事務局はどう考えているか。

事務局

エネルギーについては、区としては少ないエネルギーで安全・安心・快適という表現を使っている。2050年において豊かさが感じられる表現を使うべきだろうと考えている。

委員

在来種による樹林化などを進めることが多様性の向上に繋がると思う。

委員

水辺③の古川については、熱望している区民が多い。

教育②について「子どもが・・・自分の責任で・・・」という表現が違和感を覚える。地域①について海苔づくりはすでに実施していることから、表現を変えるべき。

委員

将来像は、普通ここまで書かない。先を考えた上で、内容は精査すべき。

委員長

今は短期、中期の目標も入ってしまっているのもう少し整理して、2050年はもう少し夢のあるようなやわらかい目標になるのではないかと。

(4) 今後の予定について

－事務局より、今後の予定について説明し、質疑応答を行った。

委員長

今後の予定について、質問はないか。

委員

発言なし。

(5) その他

委員長

基本的に議論が足りていないので、自主的な勉強会をやった方がいい。有志を募ってという形なるが、それでもいいか。テーマの案は、1.港区にとっての生物多様性、2.普及啓発の進め方、3.企業に関わる多様性戦略の考え方の3つを考えている。

6月8日に予定している区民会議の前に行った方がいい。サポートは、事務局にお願いしたい。

委員

やるべきだと思う。

委員

了承。

委員

実施するとなると、まとめ役が必要となる。

委員長

「生物多様性」は、●●委員にお願いしたい。

「普及啓発」と「企業」は、どうだろうか。

委員

「生物多様性」のまとめ役については了承。

「普及啓発」は、教育委員会の方も参加できるシチュエーションづくりが必要。

委員

企業としては、1月25日に事業者フォーラムを実施し、4つのテーマで宣言を出し、提言にもなっている。このうち、サプライチェーンについては、地域産業である“江戸前の魚”を前面に出して、すでに行動を起こし始めている。ただし、事業として成立するためには、港区のきちんとした姿勢が大切である。自治体としてサポートしてくれないと、絵に書いた餅になってしまう。

「企業」というテーマ1つをとっても、様々な要素がこの中に入ってくる。

委員長

「企業」は●●委員にお願いしたい。

当然、企業だけでなく、様々な要素を含むことになる。

委員

普及啓発については、堅苦しい会議だけでなく、体験型という方法もよいのではないかと。自分自身、江戸前ESDの体験型の活動に参加して里海の大切さを実感する機会を得ることができた。

委員

「企業」のまとめ役について了承。「普及啓発」についても、企業と教育・普及啓発を一つでやっていき、そのうち分科会になってもよい。

委員長

それでは、「生物多様性」と「企業（普及啓発含む）」の2本だてで、勉強会を進めていくこととする。

事務局

勉強会の調整は事務局で実施する。まとめ役の方の予定だけすぐに確認したい。

委員

「生物多様性」の勉強会では、流域、他の地域のつながりなども含めて考えたい。

委員長

その他、全体をとおして、言い足りないことはないか。

委員

発言なし。

委員長

資料を確認いただいて、何かあったら後でコメントシートをいただければよい。

委員

WWFで発行しているエコロジカルフットプリントの資料も、参考にされたい。

閉 会

事務局

次回（第4回）の推進委員会は、9月4日（水）、時間は同じ（18:00～20:30）とさせていただきます。

委員

了承。

以上